

熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和元年6月22日掲載

1年1組 植田徹平

ぼくは苓北支援学校との交流を通して学んだことが二つあります。

一つ目は、体の不自由な人とどう楽しめばよいかということです。体の不自由な人は思い通りに体が動かせず、出来ることが限られて、したいことができないので、その中でどう楽しませるかを考え、目線を合わせながら声をかけたりしました。また、相手を楽しませるためには、自分たちも楽しむことが大切だと思いました。

二つ目は、支援学校の人たちも、思い通りに言葉が出なくても自分の感情を表現できるということです。ぼくは最初どう接してよいかわかりませんでした。しかし、実際に会って、パラリンピック競技種目の一つであるボッチャと一緒にしていると、顔の表情や声で楽しんでいることがわかりました。会う前に思っていたよりもいろんなことができていてすごいと思いました。

二学期にまた交流する機会があります。今度はもっと楽しんでもらえるように、上手に接することができるようにしたいです。